令和８年度　上白石小学校「学ぶ力」育成プログラム

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：24003

実態

「学ぶ力」

成　果	課　題
◇学校評価アンケートの結果から、『学びの約束』による学習環境の整備、チャレンジテスト、ドリルの活用と手引きによる家庭学習の充実等の取組に有効性が表れてきている。 ◇また、『基礎的な力を身に付ける』ことについても R6 年度に比べ評価平均は高くなっており、着実に身に付いてきていると言える。 ◇学力テストや全国学力・学習状況調査の結果から、主体的に取り組もうとする意欲や態度はもつことができている。	◇学力テストや全国学力・学習状況調査の結果から、基礎的・基本的な力については、全国平均と比べると下回る観点が多く、意欲はあるものの知識技能が定着していないという実態が見受けられる。 ◇学校評価アンケートにおいても、「学習内容が理解できているか」という設問について、児童・保護者の評価に比べ、教職員の評価が低く、内容理解の充実は必須である。

「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く　**相互承認の感度**〉の現状と課題

◇札幌市の共通指標の「自分が必要とされていると感じている」の項目が 72.2%と低い結果となっている。これは「自分にはよいところがある」の項目の 85.5%よりも低い数値であることから、自己有用感が低い児童が多いということが考えられる。反対に、「人の役に立ててうれしいと感じる」「人の役に立つ人間になりたいと思う」の項目は全項目中一番高く、「褒められたい」「人に認められたい」という思いが強いことが分かる。そのため、まずは個々の承認欲求を満たし自己肯定感・自己有用感を高めることが、相互承認の土台になってくると考えられる。

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

協働を通して得られる確かな学び

取組

課題探究的な学習の推進 に向けて	**自治的な活動**の充実 に向けて
(1) 今年度の研究のキーワード「『達成感に至る』ための協働的な学び」に基づき、教職員が互いの授業案や授業自体の交流する機会を設定する。 →全学級が公開授業の実施（部内研、全校研） (2) **『達成感』という子どもたちの実感**をどのように見取り、どのような姿をねらうのかを意識することで、日々の授業実践の向上に繋げる。 →意図的な学習環境の整備と教師の関わり（研究の視点①②） (3) 国語、算数と絞らず授業実践を交流することで、**協働的な学び、『達成感』を得た子どもの姿について、様々な教科で**教職員が学び、日々の実践に繋げられるようにする。	①よりよい学級・学校にするための活動の工夫・充実をねらって、**自治的な活動「スマイルプロジェクト」**の推進を図る。 →課題を見付け、自分達で解決していく学級活動 →学校全体が笑顔であふれるよう、**積極的に行う委員会活動** ②自分たちの成長を振り返る場の設定 →あいさつ週間、ありがとう週間等でのリフレクション ③お互いを認め合える場の設定 →互いを認め合える学級経営の推進 **→全学年の温かいつながりが実感できる異学年交流（にじいろ活動）**

「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICT の活用について

◇主に（２）や（３）について、より充実した協働的な学び、それを通じて子どもたちが『達成感』を得られるよう、ICT の導入を積極的に検討する。
◇主に①について、活動に必要なツールを教師または子どもが選択し、活動の工夫・充実をねらう。

＜本プログラムの実行に向けて＞

新年度	〔一人一人の教職員〕	〔学校全体〕	**次年度へ**
◇本プログラム共有 ・職員集会（5 月 22 日） ・パートナー校間研修	◇日常の授業・教育活動 →公開授業の実践、授業づくりで学んだことを日々の授業に生かす ◇各自の研修…札教研、年次研修等	◇公開授業の実践⇒成果の積み上げ ◇校内研修による各教員の実践と経験の交流 ◇子どもの育ちを共有 ・学年研修　・学びの支援全体会	◇学校評価アンケート →集計結果を各家庭に発信 ◇職員アンケート ◇成果と課題を共有 ・研究全体会（3 月 11 日）